

氏名	Vargas Meza Xanat		
学位の種類	博士（感性科学）		
学位記番号	博甲第 9129 号		
学位授与年月	平成 31年 3月 25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	Development of an Educational Intervention to Enhance Interest on Sustainable Design (持続可能なデザインへの興味を高めるための教育的支援開発)		
主査	筑波大学教授	博士（デザイン学）	五十嵐浩也
副査	筑波大学教授（連携大学院）	理学博士	佐藤主税
副査	筑波大学准教授	博士（感性科学）	山田博之
副査	筑波大学教授	Ph.D.	小山慎一

論文の内容の要旨

Vargas Meza Xanat 氏の博士学位論文は、20 世紀末から提唱されてきた持続可能なデザイン (sustainable design) において、その概念の普及を考慮した場合、未だに不十分な状況であることを問題として捉え、持続可能なデザインへの興味を高めるために考えられる教育的な支援方法を開発し、その効果を検討したものである。その要旨は以下のとおりである。

著者は、第1章イントロダクションとして、21世紀における持続可能性デザインの定義、ならびにその概念について言及し、歴史的経過、前述した現状における課題を選出している。この課題に対して本研究全体の目的を以下のように語っている。目的として、持続可能性デザインの興味を高めるための教育的方法の開発をオーディオ・ビジュアルを用いたインターネットの上で開発し、その興味の変化を捉えることによって効果を検討することと設定している。

第2章において著者は、イントロダクションにて触れられている持続可能性デザインについて、先行研究をレビューし、より深く、持続可能性デザインが語られるようになった背景、その歴史的成立過程、並びにその概念について言及している。また、後半は主としてインターネットが形成しているサイバースペースの現状についても言及し、提案するシステムの場の設定を行っている。

第3章では、持続可能性デザインがインターネット等のソーシャルネットワークの中でどのように取り扱われているかの現状調査を行っている。特に YOUTUBE に注目し、世界中におけるビデオの中で持続可能性デザインがどのように扱われているのかを解析している。結果として、英語のネットワークは大きなまとまりを持って持続可能性デザインが扱われており、スペイン語の場合はまとまりがより小さいという状況が散見できている。

第4章においては、第3章において扱われている YOUTUBE 中のビデオの内容に注目し、ビデオ

自体のコンテキストと持続可能性デザインとの関連について、特に単語を抽出することによる解析を進めている。また、結果として、英語のコメントから特徴的な単語が抽出され、同様に抽出されたスペイン語のコメントとの相違点が発見されている。また、英語、並びにスペイン語双方の分析結果から政治・経済的システムの違いが持続可能性デザインの受容に与える影響が示唆されている。また、文化・社会的、心理的要因と考えられる単語も持続可能性デザインには大きな関連があることも示唆されている。

第5章において、2、3、4章において得られた知見をもとに、主にインターネット上において持続可能性デザインを普及して行くためのシステムの提案と、その効果について語られている。提案システムは英語、スペイン語、それぞれの言語から持続可能性に関する YOUTUBE 内のビデオを的確に選出できるように導くシステムである。インタフェースが新たに用意され、使用者が欲しがるであろうと思われる持続可能性デザインに関するビデオがお薦めされる。効果測定の結果、初心者に対しても、上級者に対してもこのシステムを使うことによって欲しいと思われるビデオの提供につながっているという効果が認められ、上級者に対しては新たな発見につながる効果が認められた。

第6章において著者は、全体の考察と結論を述べており、様々な情報が様々な状態で存在している現状のネットワーク環境の中で、今回著者が提案した検索方法が教育的な支援方法として成立することの確認が取れている。また、政治・経済的、社会・文化的、および心理的要素が持続化可能性デザインに関係していることが示唆され、持続可能性デザインは複雑系、ダイバーシティ、問題解決等の今日の問題とも深く関与しているものであることが確認されたとしている。

審査の結果の要旨

(批評)

本研究は、20世紀末にデザイン分野において提唱され、今日においてはSDGs等において取り上げられるようになっている持続可能性デザインを研究対象とし、その成立過程と現在までの概念の内容を精査し、かつその概念がどのように人々に普及されているか、並びにいかに普及してゆけば良いのかを主な研究内容とした稀有な、独自性に富む論文である。現代における情報普及の主たる方法としてのネットワーク環境を取り上げ、ネットワーク環境の特性をもとに構築されている教育的支援方法は無理がなく、現実的である。

平成31年1月16日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。よって、著者は博士（感性科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。